

特集／アジア地域関連コレクション—わが国主要図書館の所蔵資料から

農林水産政策研究所の東アジア・東南アジアコレクション

田丸政男

農林水産政策研究所は、農林水産省の所掌する政策に関する総合的な調査及び研究を行う国の研究機関として、平成一三年四月に、農業総合研究所を改組して設立された。図書館も農業総合研究所設立当初から設置されている。

当館は農林水産分野の社会科学的研究に必要な情報を有する専門図書館として、国内外の農業経済・関連経済・法律・社会学を中心とする図書等を幅広く収集している。その中で東アジア・東南アジアのコレクションとして、これらの地域を対象とした資料を多く含む日本農研文庫を中心に紹介する。

日本農研文庫は、財団法人日本農業研究所の前身である東亜農業研究所やその友好団体であった日滿農政研究会が収集した資料を日本農業研究所から寄贈を受けたものである。昭和五二年度に受け入れ、その後七年の歳月を掛けて昭和五九年度に文庫として開設した。

日本農業研究所の前身である東亜農業研究所は、石黒忠篤元農林大臣が発起人となり財界、官界からの支援を得て誕生した民

間の総合的農業試験研究機関である。日本を中心としながら「広く東亜ニ於ケル農業及農村ニ関シ共榮圈確立上必要ナル調査研究ヲ為ス」こと等を目的として設立されたが、東亜農業研究所の時代は戦時下の昭和一七年八月から終戦直後の二〇年九月までの僅か三年である。この三年の間に『日本農業研究所五〇年史』によれば、「金に糸目をつけないで内外の図書を買集め、戦時末期には三万冊を所蔵するに至った」とある。

したがって、日本農研文庫の東アジア・東南アジアコレクションは、朝鮮・満州・台湾・南洋等旧外地である東アジアそして東南アジアについて戦前に刊行されたものが多い。

ここでは戦前の東アジアと東南アジアに関する資料に限定し、また個人著作を除いた機関等の資料について、その機関等の当館所蔵資料におけるその主な対象地域別に分けて紹介する。

●東アジア

・朝鮮

朝鮮総督府からは朝鮮の蚕糸業を含む農業・農村事情を主として約二〇〇冊所蔵している。この他に朝鮮殖産銀行や朝鮮銀行の資料も所蔵している。

雑誌では朝鮮総督府『朝鮮総督府農事試験場彙報』、『調査月報』、朝鮮農会『朝鮮農会報』などがある。

・中国

日本の国家機関である興亜院、そして東洋協会（現拓殖大学）、中支建設資料整備委員会などから中国各地に関する資料を見ることが出来る。

雑誌では東亜同文会『支那』がある。

・満州・関東州

満州国臨時産業調査局『農村実態調査一般調査報告書』、満州国開拓総局の資料、そして関東州関東都督府資料など約八〇冊を所蔵している。また、満州帝国地方事情大系刊行会『満洲帝国地方事情大系』は全冊所蔵していないものの、多くの地域をカバーしている。この他には日滿農政研究会資料もある。

（満鉄）

南満州鉄道株式会社の資料はソビエト関



## 特集／アジア地域関連コレクション—わが国主要図書館の所蔵資料から



農林水産政策研究所図書館「日本農研文庫コーナー」

係の資料も若干含まれているものの、大半は満州を主とした資料で約五〇〇冊、農業農村事情、貿易を中心とした資料を所蔵している。

### ・台湾

台湾総督府の資料は地方行政府の資料を含めると八〇〇余冊所蔵して日本農研文庫の中で最も所蔵数の多い機関となっている。対象地域は台湾を主として中国・南洋・東南アジアまで及ぶ。台湾地域では米、茶、砂糖などの農作物や農業経営に関するもの、林業関係、さらには人口統計が充実している。

雑誌では台湾総督府『内外情報』、『台湾総督府農業試験場彙報』、『農業試験場報告』、『中央研究所農業部報告』、『中央研究所農業部彙報』、『台湾農友会』、『台湾農事報』、『台湾山林会』、『台湾の山林』、『台湾畜産協会』

『台湾之畜産（台湾畜産公会公報）』などがある。

### ・南洋

日本が南洋群島を統治するために置かれた南洋庁からは統計書等約三〇冊を所蔵している。この他にも南洋経済研究所や南洋栽培協会の資料がある。

### ・樺太

日本の領有下において樺太を管轄した樺太庁で編集された農林水産業に関する資料や統計書を約三〇冊所蔵している。

### ・その他

日本の拓務省や企画院の下に設けられた調査機関である東亜研究所からも旧外地各地域の資料を見ることができている。

## ●東南アジア

台湾総督府の外郭団体であった南洋協会から蘭領東印度など、東南アジアを主とした資料が約九〇冊ある。また、台湾拓殖株式会社からも東南アジアに関する資料がある。

## ●年代別構成

このコレクションの発行年代別の構成割合をみると、一九〇〇年以前の資料は数冊に過ぎない。一九〇〇年代が三%、一九一〇年代が一割、一九二〇年代でも二割に留まるが、一九三〇～一九四五年では全体の三分の二、一九三五～一九四五年の二〇年間で資料の過半を占める。

ここまで日本農研文庫を紹介してきたが、この他にも当館ではコレクションとしてまとまってはいないものの、当所の前身である農業総合研究所時代に収集した旧外地の資料を所蔵している。

また、当館では中国語図書コーナー（約七〇〇冊）、韓国語図書コーナー（約三〇〇冊）を設けて統計書を中心に新刊書も収集している。中国については地方政府である省の統計書や『農民日報』、『経済日報』、『光明日報』、『人民日報』と新聞も揃えている。

## ●利用案内

当館は昭和四九年三月に、国立国会図書館支部農林水産省図書館農業総合研究所分館に指定され、また一般の方にも公開している。目的の資料を探すには、日本農研文庫を含めインターネットで検索が可能になっている。

詳しい利用方法は当館ホームページ（<http://www.primaff.afrc.go.jp/library/index.htm>）を参照された。

今回紹介した資料は、戦前刊行されたものが大半である。したがってかなり劣化した資料も存在するので、保存や利便性向上のために、マイクロ化や電子化を順次行っている。

（たまる まさお／農林水産省農林水産政策研究所図書課）